

1975 年度学会賞受賞作品・授賞理由

◆石川賞「景観の構造」

樋口 忠彦(山梨大学工学部助教授)

〈選考理由〉

本論文は、景観の視覚的性質と空間的性質とを明らかにするため、すでに評価の定まっているランドスケープがなぜすぐれているのか、その原因はなにか、ということの研究したものである。

第 I 編においては、可視・不可視、距離、視線入射角、不可視深度、俯角、仰角、奥行、日照による陰陽度の8つの指標をとりあげ、それぞれの定性的、定量的考察をしている。これらはすでに、メテンス、ソットンらが追求したものであったが、著者は新しい数値と分類により、わが国の景観にあてはめ、実証的成果をえた。

第 II 編においては、ランドスケープの空間的構造を明らかにするため、日本の神社、寺院、墳墓、庭園などを取りあげ、地形の空間的意味と構造を把握した。その際古文獻の検討から実地探究を経て、日本人の「ふるさと」としての空間、ひいては人間存在の価値にまで発展し、従来、他でふれていない分野にふみこんだものと認められる。

以上の結果から、石川賞として相応しいものとして、ここに推薦する。

◆論文賞「業務交通体系論」

渡部 与四郎(建設省区画整理課長)

〈選考理由〉

本論文は、業務交通という側面から、都市の核を形成する業務地の規模、分布と交通体系のあり方を探るといふ、著者の長年にわたる研究の成果をとりまとめたものである。

その内容は、東京 50km 圏を中心としたパーソントリップからみた業務交通特性の把握、業務活動と業務交通の関連性等の検討、および業務交通体系を規定する各種要因に関する考察を経て、東京 50km 圏におけるアクセシビリティ等の実証的検討、および都市モデルによる業務地の分布パターンと、交通ネットワークの種々の組合せに関する解析を通して、業務交通体系のあり方を考察するものである。

本論文の最大の特徴は、業務交通体系を評価するための基本因子として、業務活動におけるアクセシビリティおよび確実性という指標を導入し、指標の実証的検討と、この基本因子による業務交通体系の評価を試みている点であろう。

従来、業務交通については、これを規定する要因の複雑性、および解明のための調査データの不足から、顕著な研究成果は少なく、その緒についたばかりといえよう。著者は、業務活動は都市の成長・発展を促す原動力であり、交通ネットワークと共に都市構成上の重要な核と骨格を形成させ、業務交通はその形成に大きな影響を及ぼすとの認識から、業務交通の問題に正面から取り組み、都市構成のあり方についての一つの解明を試みたことは、大いに評価されるべきであろう。

業務交通に関して今後検討し、解明されねばならない問題は多いが、本論文は今後の研究の一方向を示すものであり、論文賞に十分値する研究であると考え、ここに推薦するものである。